【歴史総合、世界史探究】 ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試と同傾向の出題

歴史的事象の見方や、その背景にある立場を考察する問題

共通テスト　第３問　問１

資料1（アクティウムの海戦についての資料）
著作権の都合により非掲載

資料１によれば，有能な軍人だったはずのアントニウスは，クレオパトラに籠絡された結果，戦いに敗れたことになっている。しかし，海軍は既に湾内に閉じ込められており，敵艦隊を突破して脱出することが目的だったと考えれば，クレオパトラやアントニウスの行動は合理的なものだったと言うこともできる。資料１が書かれたのは１世紀末から２世紀前半のことであり，アクティウムの海戦に勝利した側によって戦後に作られた敵方に対する否定的なイメージや，ⓐ女性が政治に関わることへの反感を反映したものと考えられる。

こうしたクレオパトラとアントニウスのイメージは，後代にも強く影響した。『ハムレット』などの作品で知られる，16 世紀末から 17 世紀初頭のイングランドで活躍した劇作家 ア は，資料１の記述などを利用して『アントニーとクレオパトラ』という作品を著している。

問１ 文章中の空欄 ア に入る人物の名あ・いと，資料１から読み取れる勝利した側の見方Ｘ・Ｙとについて，最も適当なものの組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。 16

ア に入る人物の名
あ　シェークスピア　　い　ラブレー

勝利した側の見方
Ｘ　この海戦はローマ人同士の戦いだったわけではなく，真の敵はセレウコス朝の女王であった。
Ｙ　アントニウスはもはや軍人としての能力を欠いており，指導者としてふさわしくなかった。

第１回ベネッセ・駿台マーク模試　第２問　問５

問５　各班の発表後，先生は事例を一つ提示して，歴史上の人物の評価形成の要因や，評価形成の背景にある歴史認識の姿勢について考察する課題を与えた。次の事例について，評価形成の要因として考えられるものあ・いと，評価形成の背景にあると考えられる歴史認識の姿勢Ｘ・Ｙとの組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 14

先生が提示した事例

イギリスのヨーク家最後の王リチャード３世（在位 1483～1485 年）は，バラ戦争末期の戦いで敗死し，その後成立したテューダー朝によって戦争は終結した。
テューダー朝時代の劇作家シェークスピアが，その作品『リチャード３世』によって彼を残忍で醜悪な人物として描いたことで，暴君という評価が史実と離れた部分も含めて形成された。

この事例の評価形成の要因として考えられるもの
あ　シェークスピアの歴史劇上の人物像を事実と考える先入観
い　テューダー朝の王位継承を不当と考える先入観

この事例の評価形成の背景にあると考えられる歴史認識の姿勢
Ｘ　過去の為政者を美化することによって，今の体制を批判的にとらえる態度
Ｙ　過去の為政者をおとしめることによって，今の体制を肯定的に受け入れる態度

共通テストでは、アクティウムの海戦に勝利した側の見方について、資料から判断することが求められた。第１回ベネッセ・駿台マーク模試では、シェークスピアの作品『リチャード３世』の背景にある歴史認識について問われた。いずれも、歴史的事象の見方や評価がどのような立場によるものか考察することで、歴史的事象の多面的・多角的理解をうながす問題であった。

©Benesse Corporation.

【公共、倫理】【公共、政治・経済】 ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試と同傾向の出題

Benesse

公共空間に関する対話や議論について問う問題

共通テスト　第２問　問１

問１　生徒Ａの班は「公共」の授業で，公共空間の形成に関して，次の先生の説明を受けた。先生の説明中の空欄［ア］～［ウ］に入るものの組合せとして最も適当なものを，後の①～⑧のうちから一つ選べ。［5］

先生の説明

「公共空間」とは，「人間同士のつながりや関わりによって形成される空間」を意味する。そこでは，人々が主体的に参加し，互いの意見を尊重しながらこの空間を形成していくことが期待されている。

『コミュニケーション的行為の理論』という著書のある［ア］によれば，公共空間では対等な立場で自由に意見を交わすという共通理解のもとで，合意を形成していくことが大切であり，そのような合意形成には［イ］が必要である。

また別の哲学者は著書『人間の条件』で，人間の営みを「生命を維持するために必要な営み」である「労働」，「道具や作品などを作る営み」である「仕事」，「人と人とが［ウ］営み」である「活動」の三種類に分け，三番目の「活動」こそが公共空間を形成する，と論じている。

①	ア　アーレント	イ　対話的理性	ウ　言葉を通して関わり合う
②	ア　アーレント	イ　対話的理性	ウ　契約を結んでこれを守る
③	ア　アーレント	イ　他者危害原理	ウ　言葉を通して関わり合う
④	ア　アーレント	イ　他者危害原理	ウ　契約を結んでこれを守る
⑤	ア　ハーバーマス	イ　対話的理性	ウ　言葉を通して関わり合う
⑥	ア　ハーバーマス	イ　対話的理性	ウ　契約を結んでこれを守る
⑦	ア　ハーバーマス	イ　他者危害原理	ウ　言葉を通して関わり合う
⑧	ア　ハーバーマス	イ　他者危害原理	ウ　契約を結んでこれを守る

第１回ベネッセ・駿台マーク模試　第１問　問４

問４　下線部ⓓに関連して，生徒Ｘと生徒Ｙは多文化共生社会を実現するために，自分とは異なる文化や考え方を理解することが大切であること，そのためには他者との対話を通した理解が不可欠であることに気づいた。このような他者への理解を支える思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［4］

① アリストテレスは，他者との問答を通して，相手に無知の自覚をうながした。

② ハーバーマスは，人々はたとえ自分と相手の考え方の隔たりが大きいとしても，対話や議論を通じて合意形成をめざす対話的理性を持つと主張した。

③ アーレントは，人々が対等な立場で意見をいいあえる公共空間が必要であり，全体主義へと向かう「活動」を求めた。

④ センは，誰もが自分の才能・財産・地位などの情報が知らされていない状態で社会の原理を話しあうとき，公正としての正義が導き出されることを主張した。

いずれも公共空間に関する対話や議論について問う問題であった。共通テストでは、人と人とが対話や議論をする公共空間の形成に関して、ハーバーマスとアーレントの思想が問われた。第１回ベネッセ・駿台マーク模試でも、多文化共生社会の実現に向けた他者への理解を支える思想が問われ、ハーバーマスの対話的理性やアーレントの「活動」の理解が求められた。

©Benesse Corporation.

【公共】 ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試と同傾向の出題

公共空間に関する対話や議論について問う問題

共通テスト　第４問　問１

問１　生徒Aの班は「公共」の授業で，公共空間の形成に関して，次の先生の説明を受けた。先生の説明中の空欄［ア］～［ウ］に入るものの組合せとして最も適当なものを，後の①～⑧のうちから一つ選べ。［113］

先生の説明

「公共空間」とは，「人間同士のつながりや関わりによって形成される空間」を意味する。そこでは，人々が主体的に参加し，互いの意見を尊重しながらこの空間を形成していくことが期待されている。

『コミュニケーション的行為の理論』という著書のある［ア］によれば，公共空間では対等な立場で自由に意見を交わすという共通理解のもとで，合意を形成していくことが大切であり，そのような合意形成には［イ］が必要である。

また別の哲学者は著書『人間の条件』で，人間の営みを「生命を維持するために必要な営み」である「労働」，「道具や作品などを作る営み」である「仕事」，「人と人とが［ウ］営み」である「活動」の三種類に分け，三番目の「活動」こそが公共空間を形成する，と論じている。

	ア	イ	ウ
①	アーレント	対話的理性	言葉を通して関わり合う
②	アーレント	対話的理性	契約を結んでこれを守る
③	アーレント	他者危害原理	言葉を通して関わり合う
④	アーレント	他者危害原理	契約を結んでこれを守る
⑤	ハーバーマス	対話的理性	言葉を通して関わり合う
⑥	ハーバーマス	対話的理性	契約を結んでこれを守る
⑦	ハーバーマス	他者危害原理	言葉を通して関わり合う
⑧	ハーバーマス	他者危害原理	契約を結んでこれを守る

第１回ベネッセ・駿台マーク模試　第１問　問４

問４　下線部ⓓに関連して，生徒Xと生徒Yは多文化共生社会を実現するために，自分とは異なる文化や考え方を理解することが大切であること，そのためには他者との対話を通した理解が不可欠であることに気づいた。このような他者への理解を支える思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［4］

① アリストテレスは，他者との問答を通して，相手に無知の自覚をうながした。

② ハーバーマスは，人々はたとえ自分と相手の考え方の隔たりが大きいとしても，対話や議論を通じて合意形成をめざす対話的理性を持つと主張した。

③ アーレントは，人々が対等な立場で意見をいいあえる公共空間が必要であり，全体主義へと向かう「活動」を求めた。

④ センは，誰もが自分の才能・財産・地位などの情報が知らされていない状態で社会の原理を話しあうとき，公正としての正義が導き出されることを主張した。

いずれも公共空間に関する対話や議論について問う問題であった。共通テストでは、人と人とが対話や議論をする公共空間の形成に関して、ハーバーマスとアーレントの思想が問われた。第１回ベネッセ・駿台マーク模試でも、多文化共生社会の実現に向けた他者への理解を支える思想が問われ、ハーバーマスの対話的理性やアーレントの「活動」の理解が求められた。

©Benesse Corporation.